



令和7年度「滋賀県心の教育相談センター」相談業務

資料 4

滋賀県
教育委員会

設置目的

不登校児童生徒に対する相談ならびに支援を行う

相談体制

カウンセラー5名および専門医1名
(相談1ケースにカウンセラー2名が継続的に担当)

相談機能

不登校の背景や本人の希望を探り、課題を整理して、
本人の自己理解を促しながら次に踏み出せるようにする

本人に即した教育環境及び生活環境の調整

保護者の理解と本人への対応に関する助言

医療的な側面から心身の状況の分析と助言

進路選択及び決定に向けた情報提供と助言

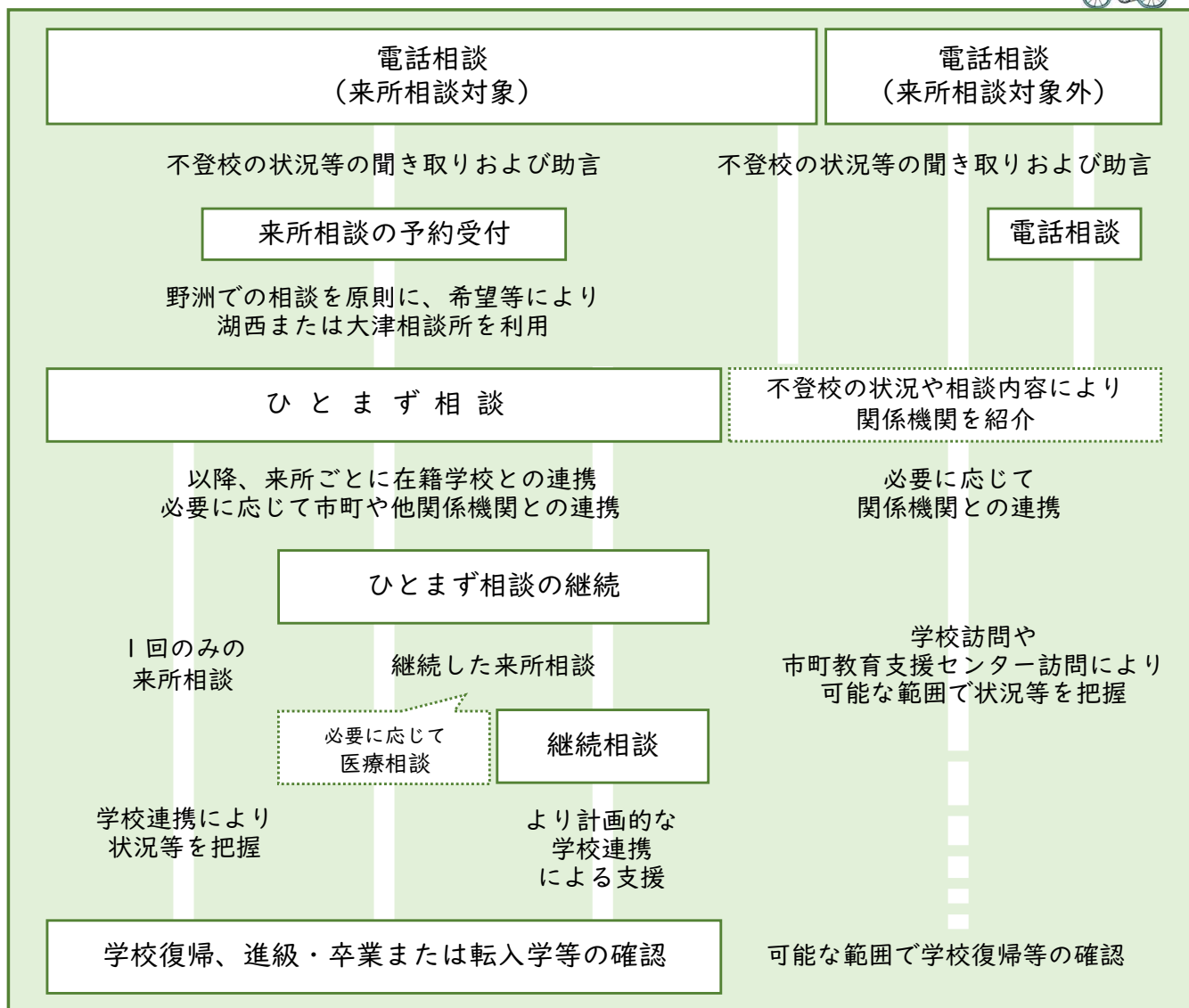
相談場所・時間

	相談日	相談時間
心の教育相談センター (総合教育センター内)	月～金曜日	10:30～12:30 13:30～16:30 予約電話9:00～17:00
同：湖西相談所 (高島保健所内)	隔週火曜日	9:00～12:00
同：大津相談所 (大津合同庁舎内)	隔週火曜日	9:00～12:00

相談対象

	電話相談	来所相談
市町立小中学校等在籍の児童生徒	○	
県立中高等学校の児童生徒	○	○
国・県立特別支援学校の児童生徒	○	○
国・私立小中高等学校の児童生徒	○	○
その他(幼児・園児等)	○	

相談の流れ





令和7年度「滋賀県心の教育相談センター」重点項目

滋賀県
教育委員会

設置目的

不登校児童生徒に対する相談ならびに支援を行う

相談機能

不登校の背景や本人の希望を探り、課題を整理して、
本人の自己理解を促しながら次に踏み出せるようにする

相談対象

県内に居住する、または県内の学校園等に在籍する
児童および生徒（幼児）

相談体制

カウンセラー5名および専門医1名
相談場所：野洲（総合教育センター内）・湖西（高島）・大津

現 状

不登校の状況 [R5文部科学省諸課題調査] 前年比

	全国	県
小学校	2.16% (+0.44)	2.01% (+0.41)
中学校	7.04% (+0.77)	6.20% (+0.79)
県立高等学校	2.63% (+0.34)	2.84% (-0.02)

全国の高等学校は国公立

相談等の状況 [R5～6相談業務記録] R7 3月末

	R5	R6
電話相談総数	473人	447人
来所相談総数	267人	328人
来所ケース数	81件	56件
継続ケース数	6件	13件
学校連携総数	485件	466件

相談後の状況 [R5～6来所相談記録] R7 3月末

高校生	R5	R6
進級・卒業	43.4%	60.7%
転入学	42.1%	26.8%
原級留置	6.6%	5.4%
不明	7.9%	7.1%

研修会の状況 [R6研修会総括記録]

	会場	オンデマンド
小・中学校	26人	105人
高校・特支学校	24人	132人
他・教委等	10人	4人
計	60人	241人

課 題

県内高校生の不登校

- 高校生の不登校の改善に向け、
小中高の一貫した取組や支援体制が必要

相談者への的確な助言と学校連携

- 早期に的確な支援が講じられるよう、
学校連携をより丁寧に進めることが必要
- 市町の相談機関のシステム・フローを把握し、
県立学校へ情報提供することが必要

一歩踏み出した率

- 復学・転入学後の継続的な支援のため、
学校だけでなく関係機関との連携が必要

不登校の背景の多様化・複雑化

- 学校内での適切なアセスメントに向け、
教員対象の研修をより充実させることが必要

重 点 項 目



I 調査研究

- ・不登校の背景等の分析と手立ての検討
- ・学校訪問による支援体制の把握と助言
- ・市町訪問による現状の把握と連携の強化

II 相談業務

- ・電話相談による状況の把握と助言
- ・来所相談による課題の整理と支援
- ・医療相談による医療的側面からの分析と助言
- ・保護者会開催による保護者支援

III 機関連携

- ・学校および関係機関との積極的な連携
- ・市町（教育支援センター等）との積極的な連携
- ・医療機関等の情報収集と連携

IV 啓発活動

- ・不登校研修会による教員研修と人材育成
- ・広報紙およびポスターによる相談業務の周知
- ・「ホームページ」「教育しが」による広報と啓発